

【各学部の事例】

高等部



I 高等部 国語科Iグループの実践事例

(1) 対象生徒と段階、年間目標等の設定

生徒名	年間目標（国語科で目指す資質・能力）	国語科の段階・目標・主な内容
TR 1年 (男)	①基本的な話型を使って、自分の思いや考えを簡潔に相手に伝える。	1段階、目標イ知・技ア(エ) 思判表Aア
KM 2年 (男)	①根拠や理由を付けて、思いや考えを自分の言葉で伝える。	2段階、目標イ知・技ア(エ) 思判表Aオ
TN 2年 (女)	①自分の思いや考えを、伝えたいことを整理して簡潔に伝える。	2段階、目標イ知・技ア(エ) 思判表Aウ
NY 2年 (男)	①相手や目的に応じて自分の伝えたいことを明確にして話す。	2段階、目標イ知・技ア(エ) 思判表Aウ
ID 3年 (男)	①参考になる絵や写真をもとに、見聞きしたことを簡潔に相手に伝える。	2段階、目標イ知・技ア(エ) 思判表Aエ
OA 3年 (女)	①テーマに沿ったり、資料に基づいたりして、根拠を明確にして、自分の思いや考えをまとめ、相手に伝える。	2段階、目標イ知・技ア(オ) 思判表Aエ
SY 3年 (男)	①相手の話に関心を持ち、相手の話の中心に気を付けて話を聞き取る。	2段階、目標イ知・技ア(ア) 思判表Aア

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名（指導内容）★イニシャルは生徒名、番号は育成したい年間目標を示す。
国語科	「聞く力を高めよう① ～インタビューーになりきって～」(うなずき、相づち、インタビュー) …TR、KM、NY、TN、ID、OA、SY① 「聞く力を高めよう② ～会話のキャッチボール～」(話し手の意図) …TR、KM、NY、TN、ID、OA、SY①
観光科	「せんぼくいきいきショップ①②」(言葉遣い、コミュニケーション) …TR、KM、NY、TN、ID、OA、SY①
総合的な探究の時間	「せんぼくいきいき5デイズ」(言葉遣い、コミュニケーション) …TR、KM、NY、TN、ID、OA、SY①
生活単元学習	「みんなでチャレンジ②」～保育園交流I～(言葉クイズの立案) …TR① 「6人でチャレンジ①」(2年)(地域の方へインタビュー) …KM、NY、TN 「いざ開店」～7人のオモウマイ店～(3年) (地域の方へインタビュー) …ID、OA、SY

(3) 重点事項に基づく国語科の授業づくり・授業実践

① 単元名「聞く力を高めよう① ～インタビューーになりきって～」(計6時間)

② 単元目標(全体目標)

ア 話の内容や意図及び、話を聞くときにうなずいたり相づちを打ったりする理由やタイ

ミングが分かる。(知・技)

イ インタビュアーの活動を通して、「そうなんです」「私もそう思います」などの言葉を用いたり、相手が話した内容を繰り返して伝えたりすることで、相手の話に共感する姿勢を示す。(思判表)

ウ 相手の話を、興味をもって聞く。(学・人)

③ 単元設定理由

本単元においては、「聞くこと・話すこと」に重点を置いた内容を取り上げた。身近な話題を基にインタビューすることで、簡潔にテーマについて質問したり、相手の話に関心したりする力を身に付けることを目指した。これらの力を身に付けるために、記者やアナウンサーなど、目標とするインタビュアーを設定することで、生徒が意欲的に学習に向かい、より生徒の主体性を尊重した単元にできると考えた。

本単元では、相手の話に関心できるインタビュアーを目指して、段階的にステップアップできる設定にした。単元の初めに、うなずきや相づちの打ち方など聞くことの大切さについて学習する時間を設定し、単元の中盤では、うなずきや相づちなどを実際に活用した聞く時間を設定した。後半は、相手の話に関心する姿勢を伝えられるように、「そうなんです」「私もそう思います」などの相づちの言葉について学ぶ時間を設定した。6時間の構成において生徒が「できた」と感じられるように、発展的な内容を設定した。

本単元において身に付けた「聞くこと・話すこと」に関する力は、観光科や総合的な探究の時間において、地域の方や観光客と接する際に活用できると考えた。次単元においては、抑揚を付けた話し方や分かりやすい質問の仕方などを学ぶために、会話のキャッチボールを題材として取り入れた。また、10月には「せんぼくいきいきショップ」や「せんぼくいきいき5デイズ」を控えており、国語科で身に付けた聞く力・話す力を基に、実際の会話の中で、相手の話に合わせて相づちをしたり、質問をしたりする姿が見られるようになることを目指した。

④ 単元の個人目標

※単元終了後の学習評価を次の評価で行う。

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。				
○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。				
△：一部達成している。まだ支援を要する。				
生徒	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標及び内容
TR 1年 (男)	知・技	・ 「そうなんです」「私もそう思います」などの語句の使い方が分かる。	○	国語科小3段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ウ(イ) [思判表]Aウ
	思判表	・ 共感の気持ちを表したいときなどに、タイミングよくうなずきや相づちをする。	◎	
	学・人	・ 適度に相手に体を近づけて話を聞き、話に興味をもっていることを示す。	○	
KM 2年 (男)	知・技	・ 「そうなんです」「私もそう思います」などの語句の使い方が分かる。	○	国語科高1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア(イ)
	思判表	・ 話の流れに合わせて、うなずいたり、相づちを打ったりする。	○	

	学・人	・表情を柔らかくし、笑顔を交えることで相手の話への興味を示す。	○	[思判表]Aア
TN 2年 (女)	知・技	・相手に対して共感する姿勢を示すために、相手が話した内容を繰り返す。	○	国語科中2段階 (1) 目標イ
	思判表	・タイミングよく、うなずいたり、相づちを打ったりする。	◎	(2) 内容 [知・技]ア(エ)
	学・人	・アイコンタクトを取りながら相手の話に感心を示す。	◎	[思判表]Aエ
NY 2年 (男)	知・技	・共感する姿勢を示すために、相手が話したことを繰り返す。	○	国語科中2段階 (1) 目標イ
	思判表	・話の流れを理解し、うなずいたり、相づちを打ったりする。	◎	(2) 内容 [知・技]ア(ア)
	学・人	・アイコンタクトや笑顔を交えた表情で相手への関心を示して話を聞き、話の内容を理解しようとする。	○	[思判表]Aア
ID 3年 (男)	知・技	・「そうなんです」「私もそう思います」などの語句の使い方が分かる。	○	国語科中1段階 (1) 目標イ
	思判表	・相手からの問い掛けがあったときや、同じ考えをもったときに、うなずいたり相づちを打ったりする。	◎	(2) 内容 [知・技]ア(ア)
	学・人	・笑顔を保って表情を柔らかくし、相手への関心を示す。	◎	[思判表]Aエ
OA 3年 (女)	知・技	・話す相手に共感する姿勢が伝わるように、相手が話したことを繰り返す。	◎	国語科高2段階 (1) 目標イ
	思判表	・「うれしかったですね」「不安ですよ」など、相手の感情を言語化して伝える。	◎	(2) 内容 [知・技]ア(ア)
	学・人	・声のトーンを調整することで話への興味を示す。	◎	[思判表]Aア
SY 3年 (男)	知・技	・「そうなんです」「私もそう思います」など、共感する姿勢を示す語句の使い方を理解する。	○	国語科中2段階 (1) 目標イ
	思判表	・相手が話しているときに、うなずいたり、相づちを打ったりする。	○	(2) 内容 [知・技]ア(ア)
	学・人	・自分が話す場面を減らして、話を聞く。	△	[思判表]Aア

⑤ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び児童生徒の変容

ア 適切な言語環境づくり

(ア) 導入の工夫

緊張をほぐしたり、イメージを膨らませたりするためのウォーミングアップとしてジェスチャーゲームをする場を設けた。授業の導入において、必ずウォーミングアップを行うことで授業に対する期待感が高まるとともに、どのようなジェスチャーをすれば相手に伝わるか思考を深めることにつながり、言葉のイメージが湧きやすくなった(写真1)。

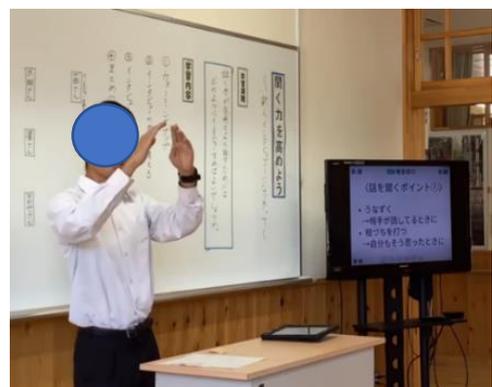


写真1 ジェスチャーゲーム

(イ) 話を聞くポイント表の活用

生徒が意欲をもって学習に臨めるように、「〇〇新聞の〇〇です」などと、記者やアナウンサーになりきってインタビューする場面を設定した。インタビューの際には、「話を聞くポイント表」を用意して、モニターに映して見せることで、共感する姿勢が相手に伝わるインタビューの仕方を理解することにつながられた(写真2)。

〈話を聞くポイント①〉	〈話を聞くポイント②〉
<ul style="list-style-type: none">・うなずく →相手が話しているときに・相づちを打つ →自分もそう思ったときに	<ul style="list-style-type: none">・「そうなんですね」・「うんうん」・「すごいですね」・「私もそう思います」・「そうですよね」
〈話を聞くポイント③〉	
<ul style="list-style-type: none">・相手の話を繰り返す 例) 昨日ホームランを打ったんですよ →ホームランを打ったんですね	

写真2 話を聞くポイント

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) タブレット型端末を活用した自己評価

生徒が話を聞いている様子を自己評価できるように、インタビューしている様子をタブレット型端末で撮影し、振り返る場を設けた。うなずきや相づちについて、自分ではできていると感じていたことができていなかったり、自分が思っていたよりも相手に共感を与えられるようになりアクションができていたことに気付いたり、自己評価するうえで有効な手段であった(写真3)。



写真3 タブレット型端末で撮影

(イ) 他者評価の機会の設定

うなずきや相づちがあった場合とない場合の感じ方が分かるように、インタビューを受けた生徒がインタビュアー役の生徒を評価する場面を設定した。相手の話に対して、うなずきや相づちをした方が好印象を得られることを知るとともに自分のインタビューの仕方(話し方)に自信をもつことにつながられた(写真4)。



写真4 インタビュー

⑥ 授業の課題・改善案

ア 適切な言語環境づくり

(ア) 話を聞くポイントの常時提示

話を聞くポイント(前掲)を、状況に応じて教師がモニターに映して提示したことで、生徒の理解につながれたが、生徒自身が必要に応じてポイントを確認しながら学習に取り組めるように、ホワイトボードやカードなど、常時提示した方が分かりやすかった。生徒の実態に合わせて目標を設定し、目標を達成するためのICTの効果的な活用方法について、さらに絞り込む必要があった。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) ポートフォリオの活用

各教材を教師がモニターに映して提示したり、プリントを見るよう指示したりしていたが、これまでの学習をポートフォリオとしてまとめることで、生徒自身が必要に応じて自分でポイントを確認できるようになり、より生徒の主体性を育むことができたと考えられる。インタビュー時の表情を、アルバムのように撮りためて、いつでもタブレット型端末で見られるようにすることも、一つの有効な手立てであった。

(4) 他の学習場面における国語科単元で学んだことの活用

① 指導の形態・学年・対象生徒・単元名、関連する国語科の年間目標

観光科・2年・NY・「せんぼくいいききショップ①②」(15時間)・年間目標①

② 国語科の対象単元の個人目標及び年間目標に関わる成果

ア 話の内容を理解する力の高まり

観光科の学習において、仙北市内で販売活動をしたり、太鼓演奏をしたりして観光客や地域の人と関わる学習の場を設定した。相手の話に合わせてうなずいたり、「そうなんですね」などの語句を使って同意の姿勢を示したりする等、国語科で学んだことを活用する場面が見られた。

イ 積極的に人と関わろうとする姿勢

自信のなさから、これまでは自分から観光客や地域の方に話し掛ける場面はほとんど見られなかった。国語科で話を聞くための基本的なスキルを身に付けたことで自信をもち、自分から「どちらからいらしたのですか」などと話し掛けたり、太鼓体験の場において、コミュニケーションを取りながら太鼓の叩き方を教えたりと、積極的に人と関わろうとする姿が見られてきた。

③ 授業の課題・改善案

ア 実践的に学ぶ場の設定

観光科の「せんぼくいいききショップ」の単元においては、武家屋敷ナビゲーター・太鼓演奏・作業学習製品販売・宣伝のグループに分かれて学習を進めた。本学習グループは、このうちの太鼓演奏のグループであり、たくさんの観光客に演奏を見てもらうことはできたが、直接関わる場面が少なかった。そこで、演奏後に、観光客と交流する場面を設けて生徒が太鼓指導を行ったことで、観光客との関わりが増え、実践的に「話す・聞く」ことに関して学ぶことができた。一方で、実践的に学ぶ場の設定はまだ少なく、年間指導計画に計画的に組み入れ、机上の学習ではなく実際の場での学習を継続して行っていくことが効果的であると考えられる。

2 高等部 国語科2グループの実践事例

(1) 対象生徒と段階、年間目標等の設定

生徒名	年間目標 (国語科で目指す資質・能力)	国語科の段階・目標・主な内容
IA 1年 (男)	①相手に関心をもって話を聞いたり見聞きしたりしたことや経験したことなどについて内容の大体が伝わるように、順序立てて話したりする。	小3段階、目標イ 思判表Aカ

TK 1年 (女)	①相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合ったり、考えをもったりする。	中1段階、目標イ 思判表 A ウ
MH 2年 (男)	①気持ちに関する言葉の語彙を増やすとともに、状況に応じて声の大きさや言葉遣いに気を付けて話す。	中2段階、目標イ 知技ア(エ) 小3段階、目標イ 思判表 A オ
IR 3年 (女)	①相手の話に関心を持ち、相手の話の中心に気を付けて話を聞き取る。	中2段階、目標イ 思判表 A ア
KN 3年 (男)	①話す事柄を思い浮かべ、相手に伝わるように順序立てて話す。	中2段階、目標イ 思判表 A ウ
TT 3年 (男)	①相手に伝わるように、主語と述語を使って、順序立てて話す。	中1段階、目標イ 知技イ(ア) 思判表 A ウ

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名(指導内容)★イニシャルは生徒名
国語	「相手の話を聞き取ろう～私の好きな物・好きなこと～」(視線、表情、相づち)「行ってみたいところを聞き取ろう」(話の大体)「観光案内パンフレット作り～武家屋敷の魅力を分かりやすく報告しよう～」(話の順序、要点)…TK、IA、MH、IR、KN、TT① 「伝わりやすくなるように書こう」(主語と述語、話の順序)「聞き取ったことを伝えよう」(主語と述語、話の順序、推敲)…IA、MH、KN、TT①
総合的な 探究の時間	「せんぼくいきいきプロジェクトを成功させよう」「せんぼくいきいき5デイズに向けて」(接客)…TK、IA、MH、IR、KN、TT①
作業学習	「実習」(挨拶、メモの取り方)…TK、IA、MH、IR、KN、TT① 「樺細工を知ろう」「納品しよう」「販売会に向けて、樺細工製品をつくろう」(インタビュー、質問・報告・相談、接客、作業内容の聞き取り)…TK、MH、TT① 「野菜を納品しよう」「販売会に向けて」「食品加工の仕方を覚えよう」(接客、作業内容の聞き取り)…IA、IR、KN①
観光科	「栗田支援学校との交流」(話し方、話の順序)…TK、MH、IR、TT①
職業/生活 単元学習	「実習事前・事後学習」(挨拶の仕方)…TK、IA、MH、IR、KN、TT①

(3) 重点事項に基づく国語科の授業づくり・授業実践

- ① 単元名「行ってみたいところを聞こう」(計4時間)
- ② 単元目標(全体目標)
 - ア 相手が考えていることやその理由を聞き取るためのキーワードが分かる。(知・技)
 - イ 話を聞き、分からないことを聞き返したり、質問したりしながら話の大体を聞き取る。(思判表)
 - ウ 関心をもって相手の話を聞く。(学・人)

③ 単元設定理由

本グループの生徒6名は、コミュニケーション力の育成を目指して、総合的な探究の時間で年間を通して、販売活動やナビゲーション活動に取り組んでいる。生徒たちは普段、好きなことや経験したことなどについて話をするのが好きで友達や教師との関わりを楽しんでいる。一方で、自分の興味のあることを一方的に話したり、興味のない話になると、相手の話に集中できなくなったりすることがある。

本題材は、教師の行きたいところを聞き取る活動を通して、相手の話に関心をもって楽しみながら、理由を聞き取るためのキーワードに注意して、話の大体を聞き取る力を身に付けることを目指して設定した。

④ 単元の個人目標

※単元終了後の学習評価を次の評価で行う。

- ◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
 ○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
 △：一部達成している。まだ支援を要する。

生徒	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標及び内容
I A 1年 (男)	知・技	理由を表すキーワードを三つ程度知る。	◎	国語科中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア(オ) [思判表]Aア
	思判表	分からないことは聞き返し、話の大体を聞き取る。	○	
	学・人	相手の話に関心を持ち、相手を見て話を聞く。	○	
T K 1年 (女)	知・技	理由を表すキーワードを三つ程度知る。	◎	国語科中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア(オ) [思判表]Aア
	思判表	質問をして、話の大体を聞き取る。	◎	
	学・人	相手の話に関心を持ち、相手を見て、うなづいたり、復唱したりしながら話を聞く。	◎	
M H 2年 (男)	知・技	理由を表すキーワードを二つ程度知る。	○	国語科中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア(オ) [思判表]Aア
	思判表	分からないことは聞き返し、話の大体を聞き取る。	○	
	学・人	相手の話に関心を持ち、相手に体を向けて話を聞く。	○	
I R 3年 (女)	知・技	理由を表すキーワードを二つ程度知る。	○	国語科中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア(オ) [思判表]Aア
	思判表	分からないことは聞き返し、話の大体を聞き取る。	○	
	学・人	相手の話に関心を持ち、相手を見て話を聞く。	○	
K N 3年 (男)	知・技	理由を表すキーワードを二つ程度知る。	○	国語科中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア(オ) [思判表]Aア
	思判表	分からないことは聞き返し、話の大体を聞き取る。	○	
	学・人	相手の話に関心を持ち、うなづいたり、相づちを打ったりしながら話を聞く。	◎	
T T 3年 (男)	知・技	理由を表すキーワードを二つ程度知る。	○	国語科中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア(オ) [思判表]Aア
	思判表	質問をして、話の大体を聞き取る。	○	
	学・人	相手の話に関心を持ち、うなづいたり、相づちを打ったりしながら話を聞く。	◎	

⑤ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び生徒の変容

ア 適切な言語環境づくり

(ア) 板書と同じ形式のワークシートの活用

ワークシートの形式を板書と同様にしたことで、生徒が見通しをもち、また理由を表す言葉（「～からです。」「なぜなら」）についてポイントを押さえて学習に取り組むことにつながった（写真5）。

(イ) 生徒の興味・関心を引き出すウォーミングアップ

ウォーミングアップでは、生徒がホワイトボードに向かって縦一列に並び、3分間のできるだけたくさん行きたいところを書き出すなど、ゲーム形式で考えを出す時間を設定した。動きもあり、ゲーム形式にしたことで楽しみながら行きたいところを考え、学習への興味関心をもつことにつながった。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 理由を表す言葉を考える場面の設定

導入のウォーミングアップ（上記（イ））での生徒の発言に関連させ、教師が「どうして八幡平に行きたいのですか。」と問いかけることで、生徒は「紅葉を見たいからです。」などと応答することができた。次に「（この文で）理由を表す言葉は何ですか。」等と問いかけ、生徒一人一人が考える時間を設定し、理由を表す言葉「…からです。」を引き出すことができた。

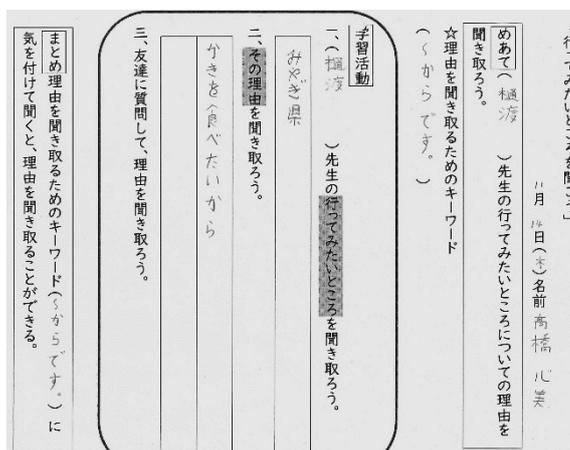


写真5 ワークシート

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 短期記憶の苦手さへの配慮

「…からです。」など理由を表す言葉について考えた後、名前や日時、めあて、理由を表す言葉のキーワード等をワークシートに書く時間を設定した。生徒は短期記憶を苦手としており、理由を表す言葉のキーワードを忘れて記入が難しかった。例えば、板書でめあてを提示した後に、名前、日時、めあてをワークシートに記入するなど、一度に提示する情報量を少なくして生徒の短期記憶の苦手さを補う必要があった。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) めあてを意識した活動

「～からです。」など、理由を表す言葉を活用するペアワーク（写真6）では、話が広がり、本のねらいから話の構成がそれることがあった。「私は、〇〇に行きたいです。それは、〇〇だからです。」の〇〇の空欄に入る部分を考えられるように提示したり、台本を用意したりするなど、めあてを意識化する工夫が必要であった。



写真6 ペアワーク

(イ) 理由を学ぶことの課題意識

「理由を学ぶことでどんなことに役立ちますか」など理由を学ぶことの大切さについて発問したが、実感をもって答えられる生徒が少なかった。例えば、作業学習で理由を聞き取ることで正確に作業できるなど、理由を学ぶことの有用性や必要感をもたせる内容の設定や、繰り返しの学習設定が必要であった。

(4) 他の学習場面における国語科単元で学んだことの活用

① 指導の形態・学年・対象生徒・単元名、関連する国語科の年間目標

作業学習・高等部1年・TK、「販売会に向けて、樺細工製品をつくろう」「働く力を身に付けよう」(45時間)、年間目標①

② 国語科の対象単元の個人目標及び年間目標に関わる成果

ア 理由の意識化

作業学習の日記の振り返り欄に、「できたこと」「難しかったこと」の後に「その理由」を書く欄を設けた。どうしてできたのか、どんなことに気を付けたら次はできそうかを書くことができ、具体的な振り返りができた。

【できたことや難しかったこと】
時間いっぱい集中して作業をすることができました。
→【理由】手を止めずに、最後まで作業をすることができたからです。

写真7 作業日記

日常生活でも、理由を意識するようになり、忘れ物を少なくする理由について、「人に迷惑がかかってしまうから気を付けたい。」と話すなど、理由を大切に、気を付けようとする姿が見られた(写真7)。

③ 授業者の課題・改善案

ア 学んだことの活用の機会の設定

学びをより定着できるように、様々な授業の場面で生徒が理由を聞く、話す場面を設定することが必要であった。単元の前に教師同士で学習内容についての目的意識を共通理解できるように話し合い等の時間の設定が必要であった。

3 まとめ

(1) 成果

① 主体的に学ぶための導入の工夫

自分の考えに自信がもてずに発言できなかったり、考えることに苦手意識があったりする生徒が多いという実態から、一人一人が安心して授業に向かい、じっくり考えて自分の思ったことや意見を発言できるように、学習の始めに、しりとりゲームやジェスチャーゲームなどのウォーミングアップの時間を設けた。生徒が楽しみながら、授業に向かい、その後の展開、まとめでも自分の意見を積極的に表現することにつながった。

② 学びを広げる年間計画の設定

年度初めに、学部内で国語科と他教科等の目標や学習内容を検討し、国語科で学んだことを他の学習場面で生かす学習内容や学習グループを設定した。国語科のグループも他教科(総合的な探究の時間など)と同様のグループで行ったことで、国語科で身に付けた聞く力や話す力を、総合的な探究の時間の校外で地域の方と関わる活動で生かすことができた。

(2) 課題

① 伝える力の育成

今年度の実践をとおして、生徒の聞く力、聞き取る力の育成をすることができた。一方で、話すことに関しては、次の3点の課題が挙げられた。

- ① 話を聞き取ったり、読み取ったりするために必要な語いの不足
- ② 自分の意見や理由について内容の大体が伝わるように、話の順序や伝え方を考えて話すこと
- ③ 発音や声の大きさ、話す速さに気を付けるなど、相手を意識した話し方

これらの課題を克服できるよう、国語科だけでなく生活単元学習や作業学習等の指導の形態においても国語科の目標を取り入れ、教育課程全体で伝える力を育む授業を実践していきたい。